



学校だより 1月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和6年1月15日
横浜市立日限山小学校
〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1
TEL 045(841)6561

つながりを大切に

～子どもたちの集団登校の姿に思う～

校長 岡崎 陽子

新しい年が始まりました。保護者、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

また、このたびの能登半島における大規模な地震により、被災されました多くの皆様及び関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、後期第2ステージが始まった1月9日（火）から11日（木）までの3日間を、本校では集団登校をする期間としました。初日、正門に立ってその様子を見てみると、どの班も班長を先頭に1年生から順に並び、副班長が最後を歩いて登校してきました。歩くペースは、1年生に合わせているせいか少しゆっくりでした。縦に並んで歩いているため、おしゃべりの声もほとんど聞こえず、しずしずと歩いているという様子でした。

翌日、ある子に「校長先生、どうして集団登校をするんですか？」とたずねられました。その声には「集団登校なんてしなくてもいいのではないか」という思いが表れているように感じました。突然だったので、とっさに「最初だから同じ地域の子どもたちが集まって、お互いが元気かどうか確認するためだよ。」と答えてしまいましたが、もっと他の答え方をすればよかったと後から反省しました。

本校では、1年間の中で4月の始業式から5日間、夏休み明け初日から3日間、冬休み明け初日から3日間の合計11日間は集団登校をしています。それ以外は自由登校です。普段の子どもたちは、友達やきょうだいとおしゃべりをしながら登校したり、自分のペースで黙々と歩いてきたりしています。それに慣れている子どもたちには、集団登校をする意義は感じにくいのも当然かもしれません。

そこで、改めてその意義を考えてみたいと思います。4月の集団登校は、初めて小学校に通学する1年生にとっては、上学年の子どもたちと一緒に歩くことができるので、安心感を得られることと思います。その他の学年の子どもたちにとっても、1年生の存在によって、自分は学年が一つ上がったのだという実感がもてるかもしれません。特に班長や副班長になった子どもたちには責任感が芽生えることと思います。8月と1月の集団登校は、きまりや交通安全に対する意識を高めるきっかけとなります。年度当初に確認した8時5分から15分の間に学校に着くように登校するという登校時間についての学校のきまりや通学路を安全に歩くために気を付けることをみんなで再確認することができます。

そして何より、集合場所にみんなで集まることは、近隣に住んでいる子どもや大人がお互い顔見知りになり、いざというときの安心感につながると思います。能登半島地震においても近隣の住民同士が声を掛け合い、助け合って避難生活をしている様子が伝えられています。日頃からのつながりをもっておくことの大切さを感じます。集団登校は、きまりや交通安全への意識を高めるだけでなく、地域のつながりをつくる一助となる取組であると捉えれば、様々な課題はあるかもしれませんが、その意義はあると考えます。

集団登校を支えてくださっている校外委員会や地区担当の皆様には改めて感謝申し上げます。また、寒さの中、横断歩道や路地に立って、子どもたちの登校の様子を見守ってくださっている学援隊の皆様や旗振りをしてくださっている保護者の皆様、ありがとうございます。2024年の始まりは、人々とのつながり、地域のつながりをよりいっそう大切にしていきたいと強く思うスタートとなりました。